

都市再生整備計画 事後評価シート
館山駅周辺地区

平成23年3月

千葉県館山市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	千葉県	市町村名	館山市		地区名	館山駅周辺地区		面積	63ha			
交付期間	平成18年度～平成22年度	事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	1194.1百万円	国費率	0.40				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路〔市道1112号線富士踏切拡幅、市道1089号線歩道整備、市道1095号線道路改良、市道3016号線道路改良(シンボルロード)〕、公園(街区公園整備、沖ノ島公園トイレ設置)									
		提案事業	地域生活基盤施設(情報板設置) 地域創造支援事業(沖ノ島公園 既設トイレ撤去)									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業	地域創造支援事業(観光情報システム整備事業)		計画変更により、関連事業に変更する		-					
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(市道3016号線汐入橋人道橋建設、市道3016号線歩道整備)		歩行者の利便性の向上のため事業を追加する		観光入込客数の指標に関係するが、数値目標は据え置く					
	提案事業	高質空間形成施設(市道3016号線(シンボルロード)のモニュメント)		モニュメントの事業費を道路事業から変更し、追加する		影響なし						
	当初	平成18年度～平成22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-						
	変更	なし										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	観光入込客数(JR・貸切バス等)	人/年	392,000	H16	731,000	H22	489,000	△	あり なし	平成24年7月	
	指標2	交通量	台/日	11,702	H17	12,310	H22	12,677	○	あり なし	平成23年12月	
指標3	公園利用者数	人/年	3,175	H17	5,175	H22	5,095	△	あり なし	平成23年8月		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	観光入込客数(自動車)	人/年	871,000	H16			1,281,000			道路整備の推進に加え、情報板設置事業による観光施設への連やかな誘導を図ることで、観光客の利便性が向上したため、自動車客数が増加した。なお、館山自動車道全線開通による影響も大きい。	平成24年7月
	その他の数値指標2	修学旅行学校数	校/年	23	H17			49			情報板設置によるPR効果や、老朽化したトイレ改修など、修学箇所環境改善を図ったことが、体験型観光を目的とした修学旅行学校数増加要因の1つとなった。また、修学旅行スタイルの多様化による影響も考えられる。	-
	4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 観光案内板を市内各所に設置することにより、地域住民にとっても観光地としての意識向上を図ることができた。 修学旅行学校数が増加しており、訪れた人達が将来的なりピーターとなることが期待できる。 館山市の玄関口である館山駅周辺地区において、既存道路や建物等と景観的に統一された道路整備がされたことにより、観光地としてのイメージアップが図られた。 本地区の道路整備と併せ、関連事業のピーチ利用促進モデル事業において、大型バスの駐車場整備がなされたことにより、今後大型バスを利用する観光客の増加が見込まれる。 富士踏切拡幅事業の効果は大きく、市民生活における安全性・利便性が向上した。 市道1095号線道路改良工事に伴う排水路工事により、しばしば発生していた大雨時の道路冠水が改善された。 										
5)実施過程の評価	モニタリング	実施内容			実施状況				今後の対応方針等			
	住民参加プロセス	なし			-				-			
		船形館山港線(シンボルロード)の整備について、地元町内会、沿線住民及び関係団体からなる船形館山港線シンボルロード協議会を開催し、主に景観(歩道デザイン、街路灯及び植栽等)についての検討を行った。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● シンボルロード事業完了の報告を兼ねて協議会を開催し、意見を聴く。			
	持続的なまちづくり体制の構築	館山駅西口地区街づくり協議会との協働で花(菜の花・ひまわり)の植栽を実施した。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も、継続して実施していく。			
	館山体験交流協会による修学旅行の受入れ・コーディネート活動			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 民間との連携の一層の強化を図る。				

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道1112号線富士踏切拡幅事業	165	L=6m	113	L=6m	事業費の精査	影響なし	●	
道路	市道1089号線歩道整備事業	14	L=80m	13	L=80m	なし	—		●
道路	市道1095号線道路改良事業	165	L=299m	136	L=299m	なし	—		●
道路	市道3016号線道路改良事業 (シンボルロード)	1,032	L=1,270m	754	L=1,270m	植栽・モニュメントの事業費を高質 空間形成施設事業に変更する	影響なし		● (翌年見込)
道路	市道3016号線夕入橋人道橋 建設事業	0	—	89	L=39m	歩行者の利便性の向上のため事業 を追加する	観光入込客数の指標に関係するが、数値目標は据え置く		●
道路	市道3016号線歩道整備事業	0	—	26	L=95m	歩行者の利便性の向上のため事業 を追加する	観光入込客数の指標に関係するが、数値目標は据え置く		● (翌年見込)
公園	街区公園整備事業	25	A=1,560㎡	20	A=1,560㎡	なし	—	●	
公園	沖ノ島公園トイレ設置事業	18	トイレ設置 1基	18	トイレ設置 1基	なし	—	●	
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	情報板設置事業	4	情報板設置	8	情報板設置	事業費の精査	影響なし	●	
高質空間形成施設	市道3016号線道路改良事業 (シンボルロードのモニュメント)	0	—	16	L=1,270m	1)植栽・モニュメントの事業費を道路 事業から変更し、追加する 2)植栽事業を削除する	影響なし	●	
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
			基準 年度		基準 年度		目標 年度						あり	なし
指標1	観光入込客数 (JR・貸切バス等)	人/年	平成21年館山市統計調査による観光入込客数を基に、近年の観光客数の伸び率を乗じて、平成22年(1月～12月)の見込み値とする。	530,000	H11	392,000	H16	731,000	H22	モニタリング		モニタリング		●
										事後評価	確定 見込み ●	489,000	事後評価	
指標2	交通量	台/日	市道1112号線(富士踏切を通過するもの)の平日12時間(7:00～19:00)自動車交通量調査を実施し、24時間交通量(年平均)を算定する。夏季の観光シーズン後の平成22年9月に実施し、これを見込み値とする。	—	—	11,702	H17	12,310	H22	モニタリング		モニタリング		
										事後評価	確定 見込み ●	12,677	事後評価	
指標3	公園利用者数	人/年	沖ノ島公園は、貴重な自然環境が残っているため、体験型観光を目的とした修学旅行者が訪れるスポットとなっている。そこで、市商工観光課のデータを用い、4月～7月の修学旅行シーズンに来訪した修学旅行者客数を評価値とする。	—	—	3,175	H17	5,175	H22	モニタリング		モニタリング		●
										事後評価	確定 見込み ●	5,095	事後評価	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	道路や公園事業により、駅周辺地区の魅力が向上し、総利用客は微増したが、電車利用客は減少の傾向にあり、数値目標値には届かなかった。	JRの特急運行数が減ったことや高速バス増便による影響もあったと考えられる。
指標2	市道1112号線富士踏切拡幅事業により、安全性の高い道路構造となり、シンボルロードにつながる海浜部へのアクセス機能が向上したことで、交通量が増加した。	拡充された大型店舗の主要アクセスであることの影響も考えられる。
指標3	情報板設置によるPR効果や、公園内の老朽したトイレ改修による環境改善により、体験型観光を目的とした修学旅行者客数は増加したが、数値目標値には届かなかった。	修学旅行の多様化による影響も考えられる。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)	
				基準年度		基準年度					
その他の数値指標1	観光入込客数(自動車)	人/年	平成22年(1月~12月)の観光入込客数の内、自動車客を把握する。ただし、「平成22年館山市統計調査」による観光入込客数の集計が平成23年6月末の予定であるため、平成21年の数値を基に、近年の自動車客数の伸び率を乗じて、平成22年(1月~12月)の自動車客数の見込み値を算出する。	1,016,000	H11	871,000	H16	モニタリング	1,281,000	駅周辺の道路整備や観光案内板の設置により、観光地としての魅力が向上したことによる効果を指標として説明する。	指標1を補完して、観光入込客数の増加を説明する。但し、館山自動車道全線開通による影響もあったと考えられる。
								事後評価			
その他の数値指標2	修学旅行学校数	校/年	市商工観光課のデータを用い、4月~7月の修学旅行シーズンに来訪した修学旅行学校数を評価値とする。	-	-	23	H17	モニタリング	49	沖ノ島公園のトイレ整備により、環境改善が図られたことによる効果を指標として説明する。	指標3を補完して、公園利用者数(修学旅行学校数)の増加を説明する。但し、修学旅行の多様化による影響も考えられる。
								事後評価			
その他の数値指標3								モニタリング			
								事後評価			

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・観光案内板を市内各所に設置することにより、地域住民にとっても観光地としての意識向上を図ることができた。
- ・修学旅行学校数が増加しており、訪れた人達が将来的なリピーターとなることが期待できる。
- ・館山市の玄関口である館山駅周辺地区において、既存道路や建物等と景観的に統一された道路整備がされたことにより、観光地としてのイメージアップが図られた。
- ・本地区の道路整備と併せ、関連事業のビーチ利用促進モデル事業において、大型バスの駐車場整備がなされたことにより、今後大型バスを利用した観光客の増加が見込まれる。
- ・富士踏切拡幅事業の効果は大きく、市民生活における安全性・利便性が向上した。
- ・市道1095号線道路改良工事に伴う排水路工事により、しばしば発生していた大雨時の道路冠水が改善された。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
船形館山港線シンボルロード協議会の開催	予定どおり実施した	● 実施時期：シンボルロード事業の計画段階から実施 実施結果：歩道のデザイン(ブロックパターン)、街路灯のイメージ及び植栽樹種についての意見を反映した。	シンボルロード事業完了の報告を兼ねて協議会を開催し、意見を聴く。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
地元住民との協働	予定どおり実施した	● 館山駅西口の歩道沿いへの植栽 (菜の花・ひまわり)	館山駅西口地区街づくり協議会 (館山駅西口地区の有志) 平成3年3月設立	今後も、継続して実施していく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
民間と連携した修学旅行の受入れ	予定どおり実施した	● ・首都圏や各方面への営業 ・旅行のコーディネート	館山体験交流協会 (民宿・漁業者などの観光関係者)	民間との連携の一層の強化を図る。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事業に関わる全ての課 (館山駅周辺地区事後評価検討会)	都市計画課・建設課・商工観光課	平成22年8月24日 計1回	都市計画課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

種別	事業名・箇所名	指標の種別		その他の数値指標1		その他の数値指標2		指標○	
		指標改善への貢献度	指標2	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
		指標名	交通量	観光入込客数(自動車)		修学旅行学校数			
基幹事業	【道路】市道1112号線富士踏切拡幅事業	◎	1112号線富士踏切拡幅事業により、以前不十分であった海岸線と直交する方向の車による移動が容易になったため、同踏切の交通量の目標値を達成した。但し、湾岸地区にアクセスする自動車利用の観光客が増えたことはその一因であって、交通量増加の主要因は線路の海側に立地する拡充された大型商業施設に線路と反対側に住む住民がアクセスする量が増えたことと推測される。	◎	市道1112号線富士踏切拡幅事業をはじめとする、道路整備の推進に加え、情報板設置事業による観光施設への速やかな誘導を図ること、観光客の利便性が向上したため、自動車客数が増加した。なお、館山自動車道全線開通による影響も大きい。	—	情報板設置によるPR効果や、老朽したトイレ改修など、修学箇所の環境改善を図ったことが、体験型観光を目的とした修学旅行学校数増加要因の1つとなった。また、修学旅行スタイルの多様化による影響も考えられる。		
	【道路】市道1089号線歩道整備事業	—		○		—			
	【道路】市道1095号線道路改良事業	—		○		—			
	【道路】市道3016号線道路改良事業(シンボルロード)	○		◎		○			
	【道路】市道3016号線汐入橋人道橋建設事業	○		○		—			
	【道路】市道3016号線歩道整備事業	○		○		—			
	【公園】街区公園整備事業	—		—		—			
	【公園】沖ノ島公園トイレ設置事業	—		○		◎			
提案事業	【地域生活基盤施設】情報板設置事業	—		○		◎			
	【高質空間形成施設】市道3016号線道路改良事業(シンボルロードのモニュメント)	○		◎		○			
関連事業	【地域創造支援事業】沖ノ島公園既設トイレ撤去事業	—		○		○			
	ビーチ利用促進モデル事業	○		○		—			
	館山港改修(地方)事業	○		—		—			
	観光屋台村設置事業	—		—		—			
	広場整備事業	—		—		—			
	観光情報システム整備事業	—		—		—			

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	海浜部までの連続した歩道整備を行うことで、歩行者の安全性をさらに高める。	連続した歩道整備や、汐入橋人道橋建設事業により、歩行者の安全性を確保し、さらなる自動車交通の利便を図る。	今後も体験型観光をPRし、リピーターはもとより、新たな学校が体験型修学旅行を目的として来訪されるよう努める。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標3			指標〇			指標〇		
指標名		観光入込客数 (JR・貸切バス等)			公園利用者数								
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	【道路】市道1112号線富士踏切拡幅事業	△	計画以前漸減傾向にあったJR・貸切バスなどの利用による観光入込客数は増加に転じたものの、目標値までは改善しなかった。本計画の道路や公園事業により、駅周辺の利便性と魅力が向上したこともその一因と考えられるが、館山自動車道全線開通以降の駅発着高速バス増便やJR特急運行数減少がこの指標を主に左右する要因といえる。	II	—	公園利用者数は大きく増加したものの、目標値には届かなかった。本事業により実施した情報板設置によるPR効果や、公園内の老朽化したトイレ改修による環境改善が利用者数増加の一因といえるが、利用者数増加の背景には修学旅行・校外学習が自然体験型に大きくシフトしたために、豊かな自然が残る沖ノ島への修学旅行が増えたことがあると考えられる。	III	—					
	【道路】市道1089号線歩道整備事業	△											
	【道路】市道1095号線道路改良事業	△											
	【道路】市道3016号線道路改良事業(シンボルロード)	△											
	【道路】市道3016号線汐入橋人道橋建設事業	△											
	【道路】市道3016号線歩道整備事業	△											
	【公園】街区公園整備事業	△											
	【公園】沖ノ島公園トイレ設置事業	△											
	【地域生活基盤施設】情報板設置事業	△											
	【高質空間形成施設】市道3016号線道路改良事業(シンボルロードのモニュメント)	△											
提案事業	【地域創造支援事業】沖ノ島公園既設トイレ撤去事業	—			△								
関連事業	ビーチ利用促進モデル事業	△			—								
	館山港改修(地方)事業	△			—								
	観光屋台村設置事業	—			—								
	広場整備事業	—			—								
	観光情報システム整備事業	—			—								

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 —：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>本地区の道路整備と併せ、関連事業のビーチ利用促進モデル事業において、大型バスの駐車場が整備されたため、海浜部で行われる各種イベントの充実や周辺の観光情報拠点の整備を図る。</p>	<p>これまで修学旅行で来訪された学校が継続的に訪れるためのPRIに加え、新たな学校を誘致するために、直接学校訪問をしプレゼンを行なうなど、体験型観光について積極的な広報活動をしていく。</p>	
------------------	--	---	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	企画課・都市計画課・建設課・ 商工観光課・みなとまちづくり課	平成22年9月14日 計1回	都市計画課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
自動車を利用する観光客の館山湾岸地区への誘導	市道1112号線(富士踏切)の改良を行なったことにより、館山湾岸地区へのアクセス機能が向上し、車での来訪者の増加と地区内の交通の安全確保ができた。	なし	・本事業で整備した沖ノ島公園バイオトイレは、処理能力が気温条件に左右される上、公園利用者数の増える夏場には処理容量を上回るという課題が新たに生じた。
市民や観光客の安全な歩行環境の確保	市民や観光客の憩いや賑わいの場である海浜部と隣接する市道3016号線道路改良事業(シンボルロード)等の道路整備により、歩道のバリアフリー化がなされ、安全で快適な歩行空間の確保がされた。	海浜部以外の交通量の多い箇所や利用頻度の高い箇所の安全性の確保	
公共交通ターミナルとしての館山駅周辺での観光情報提供システムの充実	観光情報提供のためのシステム整備はされなかったが、館山駅の総合案内板の設置により観光施設への速やかな誘導を図ることで観光客の利便性が向上した。	観光施設との情報ネットワークの充実 駅自由通路に設置した電光表示板の改善 情報案内板についての評価	
街並み景観にマッチした民需・賑わいの創出	市道3016号線道路改良事業(シンボルロード)や街区公園整備事業により、館山駅西口の街並み景観との連続性や統一性を図ることができた。	民間需要の拡大	
市民と観光客の交流や体験観光の拠点整備	街区公園整備事業や沖ノ島公園トイレ設置事業、また、関連事業であるビーチ利用促進モデル事業、多目的観光棧橋整備事業も推進されたことにより、市民と観光客の交流の場や体験観光の拠点整備の充実が図られ、賑わいの創出・憩いの場が確保された。	電車・貸切バス等を利用する観光客数の増加 体験型観光を目的とする来訪者の増加 更なる観光資源の発掘	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	自動車を利用する観光客の館山湾岸地区への誘導	海岸部の魅力アップを図る。	・海岸クリーン作戦
	市民や観光客の安全な歩行環境の確保	日常の適切な維持管理や環境美化の推進に努める。	・美化活動
	街並み景観にマッチした民需・賑わいの創出	館山市街並み景観形成指導要綱に基づいた景観の維持に努める。	・景観にマッチした意匠での建物新改築に関するガイドラインの作成
	市民と観光客の交流や体験観光の拠点整備	体験観光、魅力ある集客イベントの充実を図る。	・体験型観光の積極的な広報活動 ・海辺を活用した各種イベント・大会の開催 (ビーチコーミング体験、ウミホテル観察会、ビーチバレー大会、ビーチサッカー大会、ビーチ綱引き大会、トライアスロン大会等)

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	海浜部以外の道路整備	安全で快適な歩行空間の確保が必要である。	・歩道整備
	観光施設との情報ネットワークの充実	多様な観光情報やイベント情報を、容易に得ることができるようにする。	・渚の駅整備事業 ・観光施設との観光情報アクセス整備
	駅自由通路に設置した電光表示板の改善	設置位置が改札口から近いこともあって見にくいとの意見があるため、設置場所の再検討をする。	・電光表示板の設置場所の再検討
	情報案内板の評価	情報案内板について評価をし、改善すべきことがあれば見直しをする。	・情報案内板の評価・改善
	民間需要の拡大	民間活力を活用し、街並み景観を発展させる。	・収益施設(ホテル・商業施設)の立地誘導
	沖ノ島公園バイオトイレの管理	適切な維持管理を図る。	・バイオトイレの使用方法についての周知
	電車・貸切バス等を利用する観光客数の増加	魅力ある集客イベントの充実を図る。	・海辺を活用した各種イベント・大会の開催
体験型観光を目的とする来訪者の増加	これまで修学旅行で来訪された学校が継続的に訪れるためのPRに加え、新たな学校を誘致する。	・学校訪問によるプレゼンテーション	
更なる観光資源の発掘	館山独自の観光資源を発掘する。	・観光資源の調査研究	

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

- ・陸からの集客だけでなく、海からの安定した集客も必要である。
- ・観光地としての交流人口の増加は必要であるが、住みよいまちとしての定住人口の増加やUターン人口の増加も求められる。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	観光入込客数 (JR・貸切バス等)	人/年	392,000	H16	731,000	H22	確定 見込み ●	489,000	△	あり なし ●	→	平成24年7月	平成23年(1月～12月)の観光入込客数を把握し、その内、JR館山駅及び貸切バス等の利用客数を当該地区への観光入込客数とし、これを確定値とする。	
指標2	交通量	台/日	11,702	H17	12,310	H22	確定 見込み ●	12,677	○	あり なし	→	平成23年12月	事前調査と同時期、同条件(平日、晴れ、7:00～19:00)、同一箇所にて自動車交通量調査を実施し、この数値を基に24時間交通量(年平均)を算定する。	
指標3	公園利用者数	人/年	3,175	H17	5,175	H22	確定 見込み ●	5,095	△	あり なし ●	→	平成23年8月	平成23年4月～7月の修学旅行シーズンに来訪した修学旅行客数を確定値とする。	
指標4				H		H	確定 見込み			あり なし	→			
指標5				H		H	確定 見込み			あり なし	→			
その他の 数値指標1	観光入込客数 (自動車客)	人/年	871,000	H16			確定 見込み ●	1,281,000			→	平成24年7月	平成23年(1月～12月)の自動車客数を把握し、これを確定値とする。	
その他の 数値指標2	修学旅行学校数	校/年	23	H17			確定 見込み ●	49			→	—		
その他の 数値指標3							確定 見込み				→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・目標値に達しなかった指標について、その他の数値指標により、事業効果が確認できた。	事後評価時には主要な事業が完了していることが望ましい。
	うまく いかなかった点	・事後評価時に主要事業が実施中のため、効果の確認が不明瞭であった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・道路事業により館山湾岸地区へのアクセス機能が向上し、且つ交通安全を図ることができた。	指標設定にあたっては、十分に事業効果を検討することが必要である。
	うまく いかなかった点	・目標の達成について、数値指標を中心に評価することには限界がある。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・シンボルロード整備において協議会の意見を反映できた。	計画段階より住民参加が出来る体制づくりが重要である。 意見募集の方法について見直しが必要である。
	うまく いかなかった点	・市民の関心が高いはずのエリアを対象とした事業であるにも関わらず、原案の公表に対して住民の意見が寄せられなかった。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・庁内の横断的な組織で検討することで、いろいろな視点からの意見を聴くことができた。	中間段階で事業の効果発現状況を確認することで、適切な対応を図ることが出来る。
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

計画なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成22年11月1日から 平成22年11月15日まで	平成22年11月1日から 平成22年11月15日まで	<ul style="list-style-type: none"> ・直接持参 ・郵送 ・FAX ・Eメール (平成22年11月15日 必着)	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布	市広報「だん暖たてやま」に 原案を公表している旨を掲載	平成22年11月1日号	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	担当課窓口での閲覧	平成22年11月1日から 平成22年11月15日まで	平成22年11月1日から 平成22年11月15日まで		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	千葉大学大学院准教授 岡部明子氏	平成22年11月22日 計1回	都市計画課	館山市都市再生整備計画 評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	館山商工会議所経営指導員 盛島岳氏 館山駅西口地区街づくり協議会会長 山田忠義氏				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	特になし
	成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・本計画により行われた事業以外の要因がより強く数値指標に影響を与えていると思われるものについては、その旨を<添付様式2-①>の「その他の特記事項」に記入したほうがよい。【指標1】についてはJR特急運行の減少・高速バス増便、【指標2】については大型店舗出店、【指標3】については修学旅行の多様化があげられる。 ・同様に、その他の数値指標についても<添付様式2-②>「その他の特記事項」に記入したほうがよい。【その他の数値指標1】については館山自動車道全線開通、【その他の数値指標2】については修学旅行の多様化があげられる。 ・富士踏切拡幅事業と排水路工事(市道1095号線)によって市民生活が改善したことを、添付様式2最後の参考記述「定量的に表現できない定性的な効果発現状況」の欄に記入してはどうか。
	実施過程の評価	<添付様式3-③>に館山体験交流協会の活動を記入したほうがよいのではないかと。
	効果発現要因の整理	数値目標を達成した指標・達成できなかった指標とも、総合所見欄に、上述「成果の評価」の特記事項に関わる修正を反映させたほうがよい。
	事後評価原案の公表の妥当性	特になし
	その他	本計画は衰退傾向にある地方都市中心市街地を対象としたもので、様々な要因が複合しており、本計画の効果が定量的に把握できる指標を見出すことはそもそも困難で、数値目標を主に評価することには限界があると思われる。
今後のまちづくりについて審議	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	あらかじめ定められた方法により評価を適切に進められており、手続きの妥当性に問題はない。
	今後のまちづくり方策の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・駅の電光表示板については改善の余地があると思われるので、<添付様式5>「残された未解決の課題」欄に記入してほしい。 <添付様式6> ・「数値目標と目標・事業との整合性等」のうまいかなかった点として、定量化できる数値指標を主に評価するには馴染みにくい事業であったことを明記したほうがよい。 ・同様式「住民参加・情報公開」のうまいかなかった点として、市民の関心の高いはずのエリアを対象とした事業であるにもかかわらず住民の意見が寄せられなかったことを記入してはどうか。
	フォローアップ	特になし
	その他	特になし
その他	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	一部、シートの修正があるが、概ね妥当である。
その他		市民生活の向上につながる各種事業について、エリアでまとめてみる事ができる良い機会となった。

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画(精算報告)

たてやまえきしゅうへん
館山駅周辺地区

ちば ちば
千葉県 館山市

平成23年3月

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1:高規格道路の開通に伴う首都圏方面からのアクセスの向上、地区内の交通安全対策と生活環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車を利用する観光客の館山湾岸地区への誘導を図るため、広域幹線道路から当該地区へのアクセス道路として期待される市道1112号線等において、幅員が非常に狭い踏み切りの拡幅・歩道の整備を行い、当該地区への通過交通の円滑な誘導を図るとともに、地域住民の交通安全性を確保する。 ・市民や、観光客の安全・快適な歩行環境を図るため、館山駅近辺において、バリアフリー化した歩道の整備を行うとともに、浸水箇所の解消、排水路の暗渠化による通行幅員を確保し、市民・観光客の交通回遊性の向上を図る。 <p>整備方針2:市民と観光客の交流を促進する基盤整備による民需・賑わいの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通のターミナル機能の充実を図るため、館山駅近辺で、ITを活用した地場産品などを含む多様な観光情報システムを構築し、観光情報の速やかな提供を行い、観光客の利便性を向上させ、地域商業施設・観光施設への誘導を図る。 ・街並み景観にマッチした民需・賑わいを創出するため、観光客の再来を誘発する賑わい、憩いをかもしだし、南欧風の街並み景観にマッチした公園等の空間づくりを行うとともに、民間活力を活用した収益施設(ホテル・商業施設)の立地・誘導を図り、新たな観光需要を掘り起こしつつ、館山湾や海浜部の貴重な観光資源を活かして、市民と観光客の交流を促進し、海辺の賑わいを図る。 	<p>方針に合致する主要な事業</p> <p>基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 市道1112号線富士踏切拡幅事業 市道1095線改良事業(三軒町排水路) 市道1089号線歩道整備事業 市道3016号線改良事業(シンボルロード) 市道3016号線汐入橋人道橋建設事業 市道3016号線歩道整備事業 <p>基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 街区公園整備事業、情報板設置事業、電光情報板設置事業 沖ノ島公園トイレ整備事業 <p>提案事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> 沖ノ島公園トイレ整備事業(既設トイレ撤去) <p>関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 館山海岸環境整備事業(ビーチ利用促進モデル整備事業)(千葉県) 館山港改修(地方)事業(多目的観光棧橋整備事業)(千葉県) 観光屋台村設置事業 広場整備事業 観光情報システム整備事業
<p>その他</p>	

